

民話から知る感染症の恐怖

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 副会長 中村 均

足立区と草加市の境を流れる毛長川はかつては入間川の流路で、近世に新田開発が進むまでは流域に多くの沼地が点在していました。日暮里・舎人ライナーの見沼代親水公園駅から毛長川を草加側に渡って1キロ程下流の新里町（にっさとけなが）に毛長神社が鎮座しています。ご神体が女性の毛髪という全国でも稀な神社です。このご神体については次のような物語が伝わっています。

むかし、草加の新里村というところに、毛長姫と呼ばれる、美しい髪（とねり）の毛を持った娘がいたそうでございます。そのころの新里村は、周りを沼に取り囲まれ、何処に行くにも小船を操って出かけるなければならぬありさまでした。あるとき、南の舎人村から一人の若者がこの村へやってまいりました。用を済ませた若者が、さて帰ろうと沼を渡る船に乗りかかった時、沼のほとりに立つ毛長姫の姿が目にとまりました。色白の面立ち、なびく黒髪・・・「あれはこの沼の女神の化身だろうか」ひと目で惚れ込んだ若者は船を飛びおり、娘に近づいてたずねました。「わたしは、舎人村の村おさの息子です。ぶしつけながらあなたさまのお名をお教え願えませぬか」いきなり声をかけられ、真っ赤に頬をそめた娘は、何も答えないで逃げるようにしてその場を立ち去ったのですが、りりしい若者のことがその日から忘れられなくなってしまったのです。やがて若者は、その折の娘が毛長姫であることを知り、新里村の名主に頼み縁組を申し入れました。娘にも異存があるわけは無く、来春の輿入れと話はとんとん拍子に運び、二人は船で行き来しながら逢瀬を重ね、嫁入りの日を待ちわびていたのです。ところが、春も間近となった頃、新里の村にたちの悪いはやり病が入り込んで大勢の村人が倒れ、死びとまで出る騒ぎになりました。そのうわさはたちまち舎人の村にも伝わり、病が入り込むのを恐れた村人たちは新里村との行き来を閉ざし、昼も夜も厳しく村境を見張ったのです。いとしい若者に逢えなくなった娘は、「このままでは、縁談もとりやめになるかもしれない。今一度若者の気持ちを確かめたい」と思い悩んだあげく、見張りの緩んだ嵐の夜、舎人村目指して船を漕ぎ出したのですが、吹き付ける大風にあえなく船もろとも沼に吞まれていったのです。嵐が去った翌日のこと、舎人村の岸辺に長い黒髪が一束流れ着きました。村人たちはこれが若者を慕って溺れ死んだ毛長姫の髪だと知ると、たたりを恐れていねいに桐の箱に収め成仏を願ったのです。一方新里の村人たちも毛長姫をいとおしみ、娘の髪を貰い受けて祠を建てご神体として祀り、毛長神社と名づけました。(原典 「そうか昔ばなし」 昭和58年刊 草加市広報)より語り用に脚色一筆者)

これは感染症対策のロックダウンから起きた悲劇です。各地に遺る「道切り」「辻切り」などのフセギといわれる民俗行事も同様の背景があつて始まったことなのでしょう。今回のコロナ感染症対策では原因も分かり、治療法も格段に進歩はしていますが、ワクチンが開発されるまでの対策は最終的にはロックダウンや外出規制しかありません。その結果、生業や交流(現代では海外との)を絶たれた多くの人々を襲う悲劇を想うと、一日も早いワクチン開発を望む次第です。(元いきがい大学伊奈学園民話クラブ会員)

次回の友の会理事サポーター会議：未定です

友の会会員期限の延長と会員証の取扱いについて

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会は、令和2年度（2020年度）には404名の方が会員となっていただきましたが、新型コロナウイルス感染症対策で年度初めより博物館閉館や集会施設の使用制限などもありご期待に応える活動は全くできませんでした。このような状況を踏まえ、次年度（2021年3月～2022年4月）の会員更新手続きにつきましては、以下のように対応させていただきます。中断している友の会諸活動が再開された際には、即刻ご活用いただき、また博物館に対するご支援もよろしくお願い致します。

◆2020年度会員証の有効期限を2022年3月末日まで延長します。

2021年度の会費払込は不要です。

◆2020年度の会員には2021年度の会員証は発行いたしません。

現在お持ちの2020年度会員証をそのままお使いください。

常設展・特別展・企画展観覧の際は、博物館受付では有効期限を延長して扱います。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 会長 岩井隆興
理 事 会

プレミアム講座 「新収集品展より～2018年と2019年に収集した“県民の宝”～」

令和2年（2020年）11月18日に開催 23名が参加

今年度のイベントはほとんどが中止になってしまい、春以降初めて久しぶりの開催となりました。会場での制約も多い中でしたが、互いの無事を静かに喜びあう姿を目にしました。講座は、10月から11月にかけて開催中の企画展に合わせて新収集品からの優品を選びすぐって、新井浩文学芸主幹から説明していただく一時間でした。全体構成は美術・民俗・歴史の3章立てです。

民俗では、木村和恵銘仙コレクションが秩父の銘仙を後世に伝えていく大きな意義のあるものでしょう。歴史資料として、豊臣家の家臣成川家に伝わった武家の「宝物」である「嶋田秀順・木下秀吉連署奉書」が紹介されました。また、本館の収蔵品に相応しい太平記の研究書である「太平記理尽図経」も評価の高い写本だそうです。「新篇武蔵風土記稿」の挿図版本も新たに加わり宝物がさらに充実しています。その他、長瀬観光パンフレット（鳥瞰図）に2か所のスキー場が描かれていたり、大宮氷川公園の昔の絵葉書に秋の茸狩りと運動会ができるグラウンドが表されているという親しみ深い資料もありました。講堂のドアを開け放して大型扇風機を回し、講師席も透明板で仕切って質疑応答を省略する特異な環境でしたが安全に開催できました。（西本 記）



見学会 国内初の公立人形博物館と岩槻駅周辺を巡る

令和2年（2020年）11月19日に開催 17名が参加

さいたま市岩槻区に人形をテーマとした日本初の公立博物館がオープンしました。開館第一回目の特別展として「子供のかたち-創作人形の力展-」が開催されていました。この機会に人形博物館見学と岩槻駅周辺巡りを企画いたしました。岩槻駅を13時に出発、駅前の「ミミズク土偶」のレプリカで、真福寺貝塚の説明を行って10分程歩くと、線路脇の高台にある「愛宕神社」の樹々が見えてくる。この高台と見えるのは、かつて岩槻城と城下町を囲む「大構」と呼ばれる防御施設（土塁）です。この大構が岩槻城と城下町の周囲8kmを囲んでいたと云われています。愛宕神社は、その大構の上に祀られています。祭神は、迦具土命で、境内の松尾神社には、東照宮が合祀されています。



愛宕神社を出て5分程で、登録有形文化財に指定されている「長谷川家見世蔵」につきます。「見世蔵」とは、土蔵の中で店舗・住宅を兼ねるものを云います。岩槻は、近世以降白木綿の江戸への出荷場として栄えました。この長谷川家も白木綿問屋として繁盛したといわれています。長谷川家を出て日光御成街道を10分ほどで、「岩槻人形博物館」に到着です。重厚で落ち着いた平屋造りの建物です。入口で消毒と温度測定、氏名と連絡先記入が義務付けられています。

特別展「創作人形の力展」は、昭和初期の人形芸術運動に尽力した平田郷陽（人間国宝）と野口光彦の作品を中心に、子供のあどけない仕草や親子の情愛を表したものです。常設展では、人形造りの製作工程別の展示があり、人形に興味がある方には、充分堪能できたと思います。博物館を出て、裏小路を6分程歩くと、岩槻藩の藩校である遷喬館に到着します。ここは、儒学者である児玉南柯が創設した県内唯一の現存する藩校です。広大な敷地に、馬場や武芸稽古場もあったと伝えられています。元気ざかりの幼い塾生の刀傷が玄関脇の柱に幾筋も刻まれています。裏小路より徒歩8分、最後の訪問先「東玉人形博物館」に到着。入口で出迎えてくれた戸塚会長が岩槻人形の歴史・東玉の社名の謂れなどをビデオを交えて詳しく説明していただきました。東玉人形店内を見学し、ここで一旦、本日のツアーは、終了とし、解散としました。ここからは、希望者のみで、徒歩4分ほどのところにある「芳林寺」見学を致しました。芳林寺は、太田道灌の母の法名「芳林妙春大姉」に因んで、太田氏資が名付けました。芳林寺は、曹洞宗の寺院で、本尊は釈迦如来、太田家所縁の寺院です。徳川時代の最初の岩槻城主高力清長の長子である高力正長の墓や、洋画家の田中保の墓等があることが知られています。予定通り、午後4時、岩槻駅で解散と致しました。（犬走 記）

映像で見る廻り地蔵

～「巡り・廻りの民俗行事」調査から～

お地蔵様を拝みに行くのではなく、お地蔵様が家や村にやって来る？
当館「巡り・廻りの民俗行事」調査の報告を、映像とともにお話していただきます。
ご先祖さまの智慧や機転・ユーモアがちりばめられていないか、探してみるのも面白いのではないのでしょうか？

コロナ禍の中での制約が続いています。今年度2回目のプレミアム講座も直前の状況を確認しつつ慎重に実施しますので、会員各位のご協力を得て静かに楽しみましょう。

講師の戸邊さんは、民俗学（社会・人生儀礼）がご専門。江戸東京博物館を経て当館に勤務され、女講中の民俗誌や巡り・廻りの民俗行事を研究されました。今年度は特別展「銘仙」や民俗展示関連をご担当されています。

講師 戸邊 優美 氏 当館学芸員

日時 2021年 1月20日（水） 13：30～14：30

（開場：13時）

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン（野田線）大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

ご参加のお申し込みは、**往復ハガキ**で、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。返信ハガキ宛名面への住所・氏名もお忘れなく。1月13日（水）までに、下記の宛先へ会員ご本人限定でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
定員は先着80名とさせていただきます。当日は、受付番号記入済みの返信ハガキをお持ちの上、マスク着用等入館のルールに従ってご来場ください。

＊ ＊ 「友の会ホームページ」からの募集は今回は行いません。 ＊ ＊

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会